

1. 有体物管理センターの業務

成果有体物の授受における法令遵守管理・知的財産管理

2. 有体物ライセンス収入の学内 配分率について

有体物管理センター
深見克哉



スケジュール

- 11:00 有体物管理センターの業務について
有体物授受における当時の問題意識・課題
有体物管理センターの歴史
- 11:25 成果有体物収入の配分率の変更について
- 11:30 終了

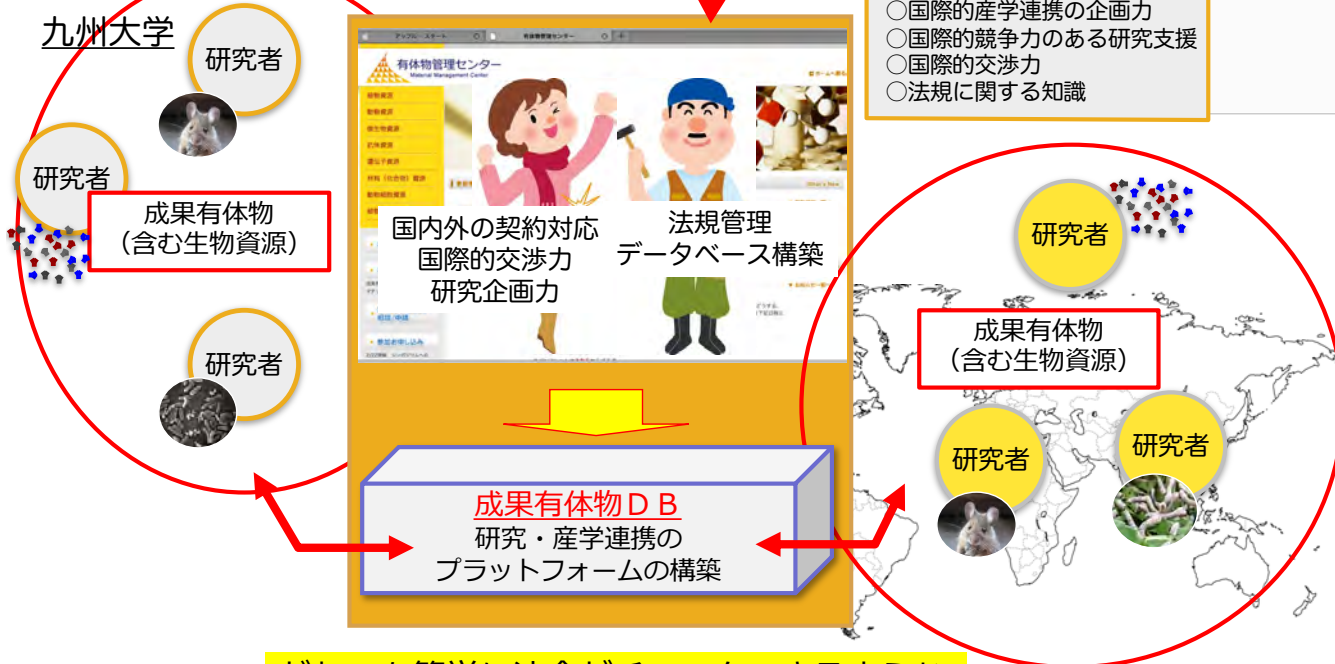


人材問題 (事務のローテーション等)

この分野の人材が不足
していた！！

育成すべき資質

- 成果有体物を用いた
- 国際的産学連携の企画力
 - 国際的競争力のある研究支援
 - 国際的交渉力
 - 法規に関する知識



だれでも簡単に法令がチェックできるような
機能を備えたシステムが必要！



(例) 有体物の授受における法令遵守・契約チェック

A大学から以下の材料を入手する。

- ・昔にインドネシアの研究者がA大学に留学の時に持ってきた菌
- ・この菌は、家畜伝染病予防の規制対象の病原体 (BSL2) でした。
- ・A大学の先生は、それを遺伝子組換えしています。
- ・また、この菌の中に、X大学P先生が単離した遺伝子を組み込んでいました。

数年後、この微生物で用途特許を出願しました。

入手する際の、当事者の先生の動き：

- 当事者の先生は、A大学から貰ったMTAの決裁を事務に依頼しました。
- 事務は契約をチェックし、サインして、A大学に返送しました。
- A大学は、遺伝子組換え生物等を送ることで、確認書を当事者の先生に送っています。

特許出願の申請を知財部に提出し、知財部の協議で当該大学の単独出願
しました。

ABS対応

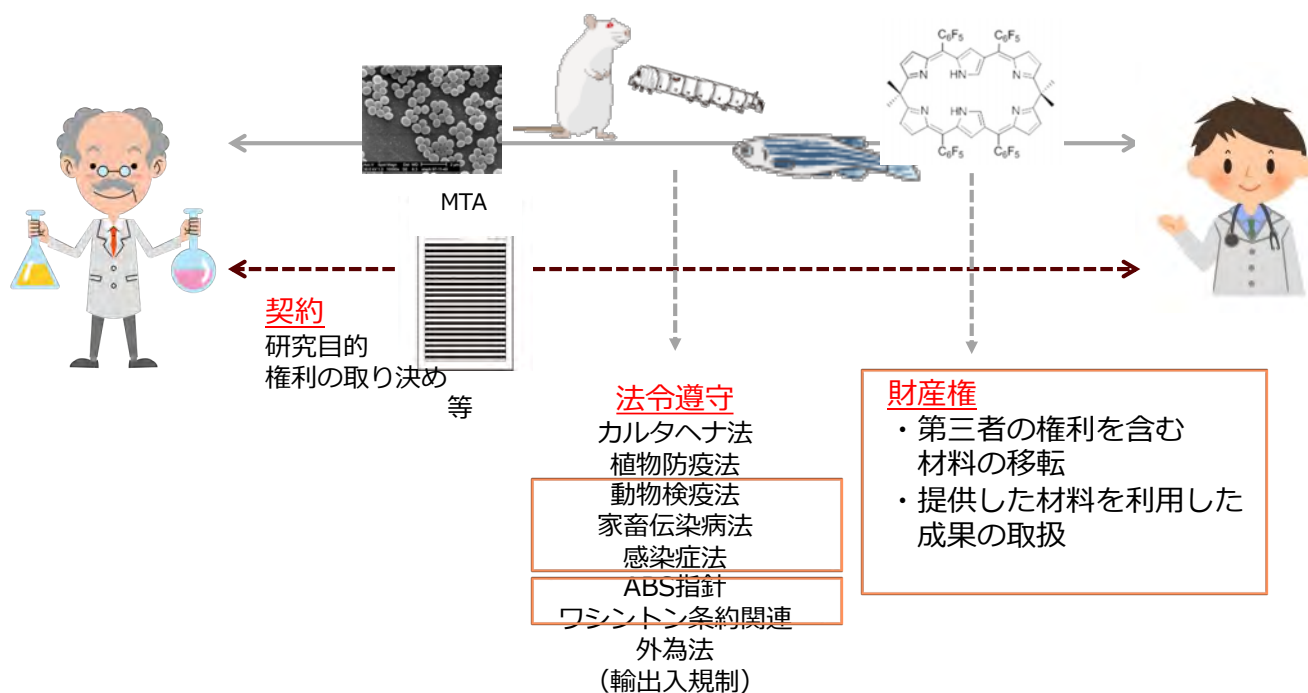
病原性微生物管理

GMO
対応

第三者の
権利保護



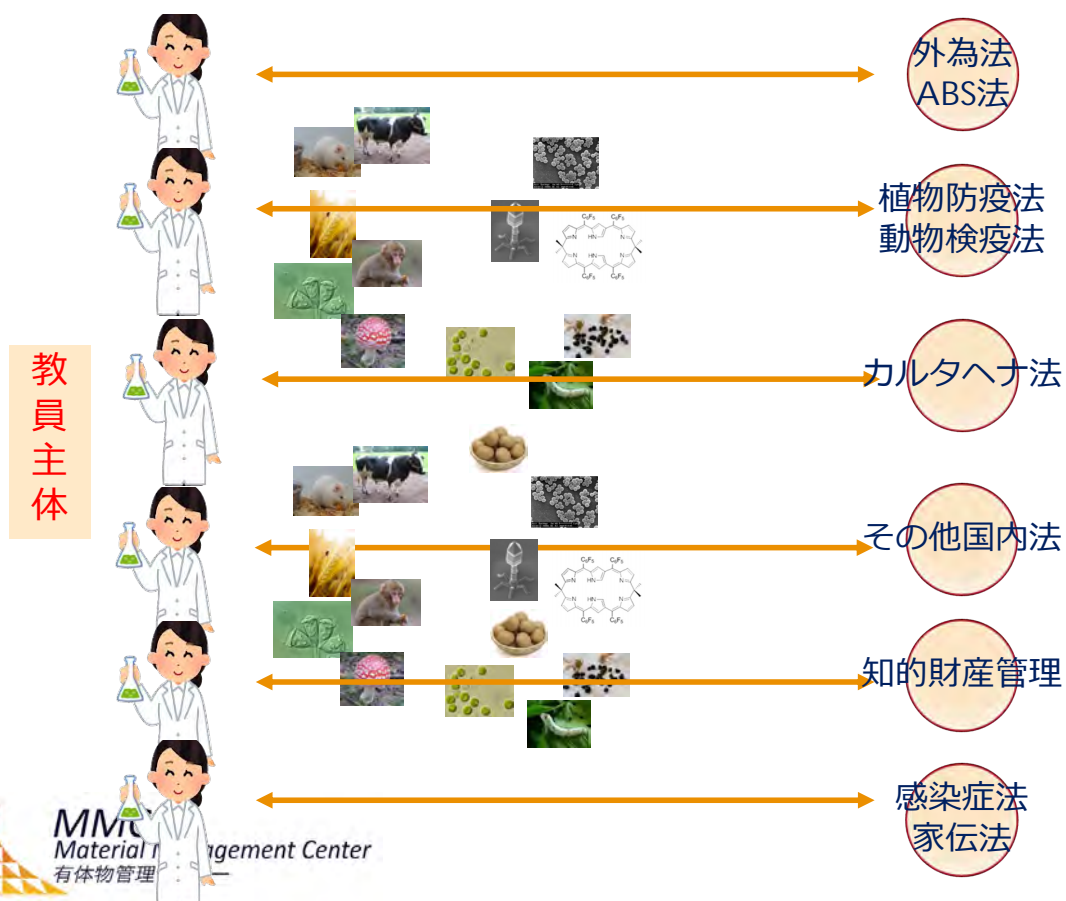
成果有体物授受に伴い守るべきもの 契約と法令



有体物の授受

各課題の管理の現状

申請



有体物管理センター簡単歴史

2007年あたりからこれらの問題意識を元に、
当時の
産学連携担当 理事、産学連携本部 本部長
事務局長
農学研究院 院長、農学研究院 先生方
の協力を得て、

(初期予算)
・学内共同利用研究センターの設立 (2009年)
・文部科学省の特別予算獲得 2期 (10年) (2010年～)
で、成果有体物移転の健全な管理方法の研究を実務を行いながら進めた。

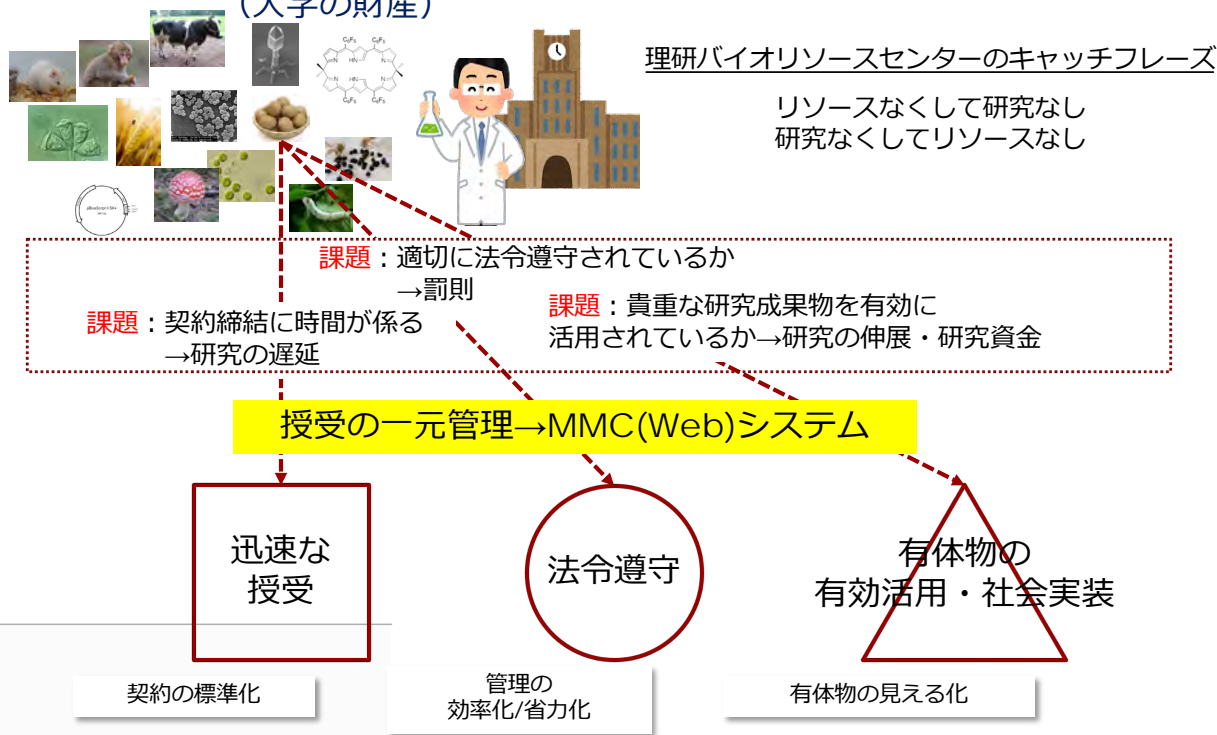
その管理方法として、Webでのオンラインによる集中管理が
効率的ではないかと考え、簡易のWebシステムを作成し、2009年よりト
ライアルを行った。

(追加予算)
その間、NBRP事業、IBBP事業の受託、科研、企業からの寄付金・共同研究
費を獲得しながら、MTA管理・法令遵守の研究を進めた。



1. 有体物管理センターの業務 (三つの役割)

九州大学にて 研究の過程で創作された
貴重で、研究上、産業上有用な有体物
(大学の財産)



有体物管理センター概要MMCシステム

○有体物管理センターが2010年に共同利用施設として特別予算を獲得して運営スタート。

○その間の成果として、**世界に唯一のWebシステムを開発し**、

学
内
管
理
の
充
実

A. 有体物移転契約の締結の迅速化

→契約締結の迅速化・省力化

- * 契約の雛型開発（合意が容易な雛型）
- * PDF決裁の対応 & 決裁の流れを単純化.....他大学は複雑化して決裁までが長い
- * Addgene, 理研BRCの包括契約による決裁レス・ペーパーレスの実現
- * 年間約600件の契約を2人（責任者と事務）で対応を実現

B. 成果有体物の授受一元化を実現し、法令遵守機能もシステム化

→法令遵守システムも開発

- * 生物多様性条約などの海外遺伝資源の授受に対応
(日本の先駆的取り組みを評価され、NBRP予算獲得)
- * 植物防疫違反などの対応
- * 病原性微生物、遺伝子組換え生物等のオンライン管理を開発・実施

C. ライセンス契約獲得

→ライセンス契約と研究資金獲得

- * 2010年より、約2億5千万円のライセンス料獲得（研究資金として80%を還元）
- * 成果有体物の社会実装（BKシードレス）支援

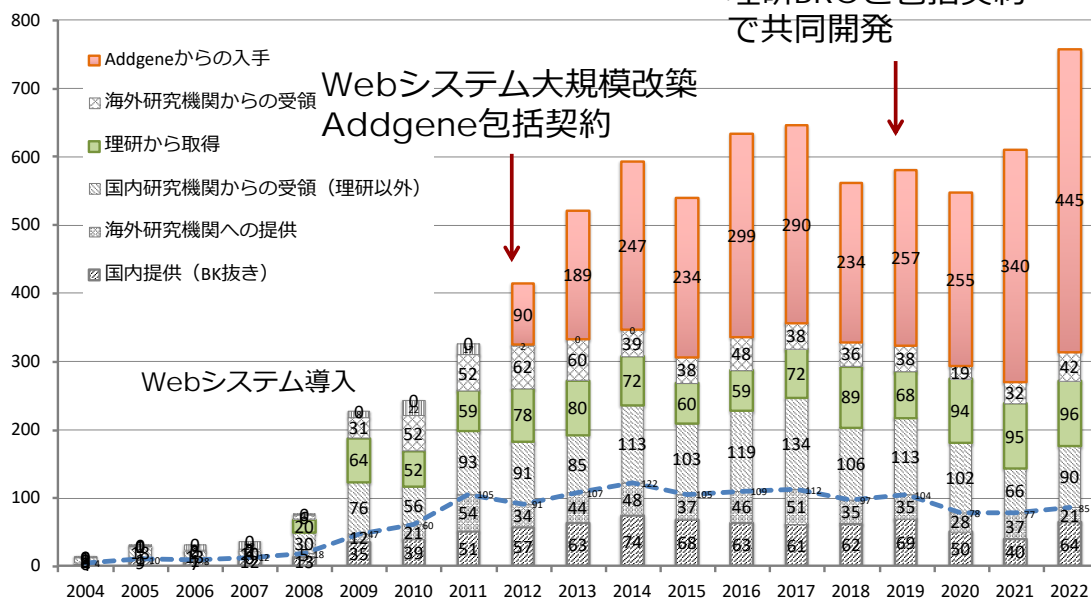
D. 他大学との連携（現時点で理研を含め、12機関）

他大学・理研BRCと連携し、この管理システムの機能についての有用性確認と各大学のノウハウ・アイデアを追加し機能強化を進め、本システムの機能を研ぎ澄ます。

主要業務：契約処理

学内有体物授受契約の一元管理を実現！
契約書等授受履歴のアーカイブ化
決裁手続きのペーパーレス等による簡素化

理研BRCオンライン化
理研BRCと包括契約
で共同開発



現在の連携大学

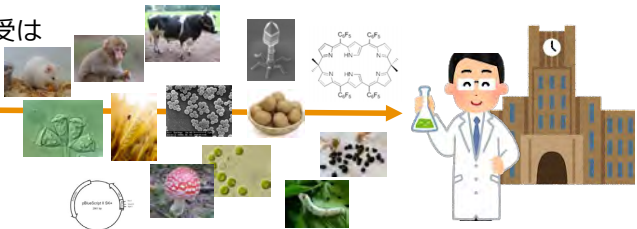
最終的に
日本において、
有体物の管理運用の共通プラットフォームとして
日本の大学の研究基盤強化に資する
システムとすることが目的



MMCシステムとは (成果有体物一元管理システム)



有体物の授受は
研究の燃料



MMC一括管理
申請
契約チェック・決裁
権利侵害・法令等チェック



研究材料・授受
管理
(研究者&管理者)

法令遵守管理
(研究材料の授受
に伴う法令)

オンライン申請化

- (法令管理)
遺伝子組換え生物等(カルタヘナ法)
(管理部門) 環境安全管理課
- ABS指針(生物多様性条約等)
(管理部門) 有体物管理センター
- 病原性微生物管理(感染症法・家伝法)
(管理部門) 各部局 → **新機能追加**
- 植物防疫法・動物検疫法
申請で確認
適宜対応
有体物管理センター(規定なし)
- (所有/知的財産) 権利侵害
有体物) 有体物管理センター
知的財産) 産連本部・有体物管理C

利用する研究材料の権利関係管理が容易になる

(他の権利を含むものを無断で第三者へ渡したり、特許出願したりする問題は、潜在的な重要課題)

⇒世界的共通認識

MMC
Material Management Center
有体物管理センター

連携大学との共同でこれらの法令をチェックできる機能を付加した。

Nepal Project

MOU was signed between Kyushu University and the Nepali Government "Ministry of Science and Technology(MOST) " for mutual research promotion in February 2010

The joint research with Nepali Academic Institutions complying with CBD was planned

吉村農学研究院院長 安浦理事 水田理事 ネパール事務次官 有川総長 ネパール側近 深見



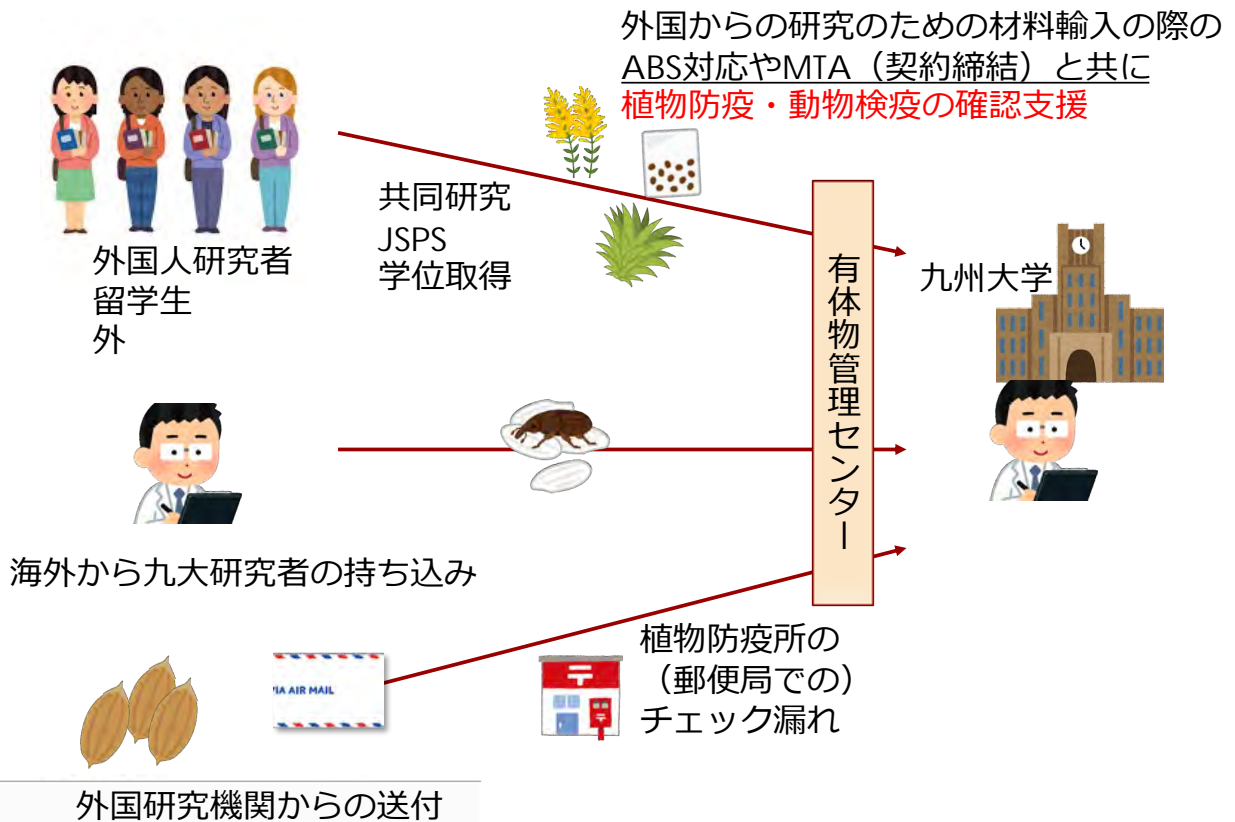
Material Management Center

日経新聞

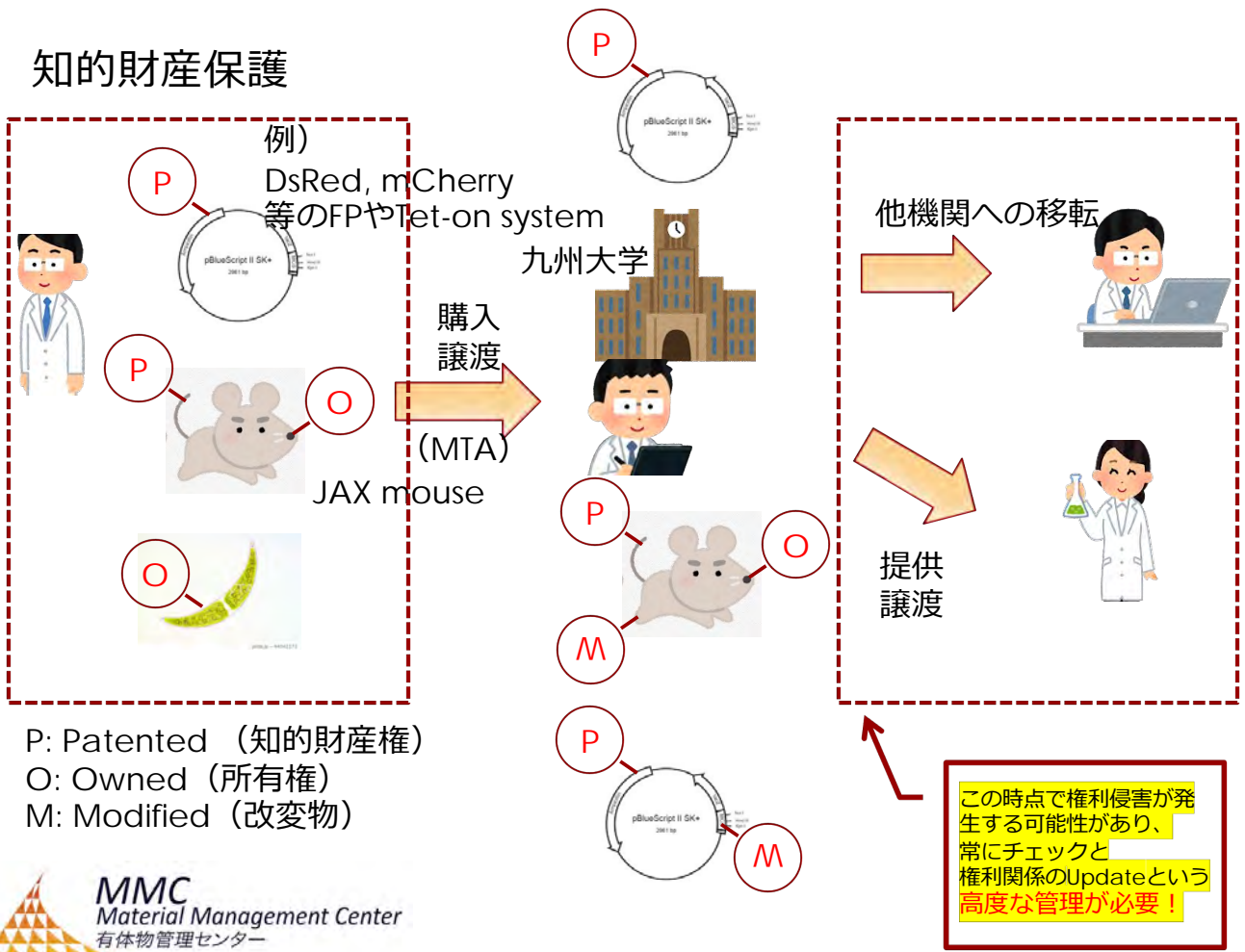
10.2.25



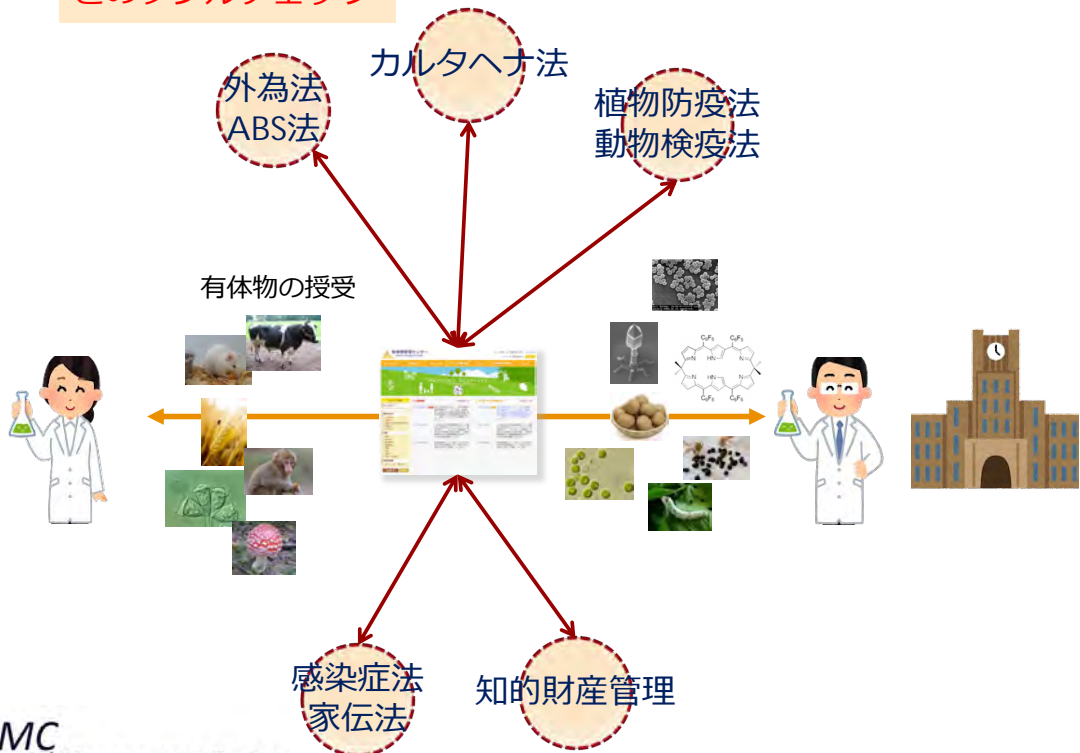
対応事例 (例)



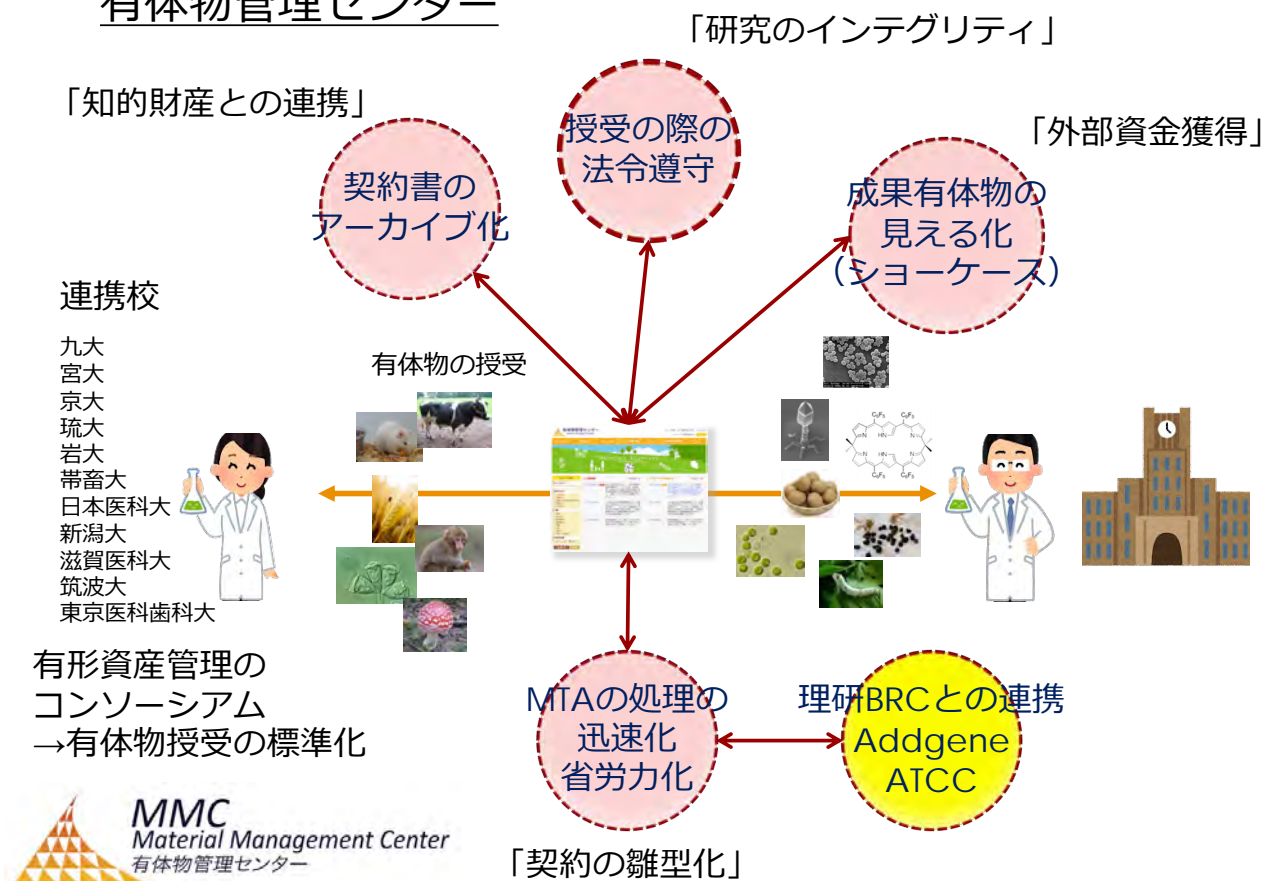
知的財産保護



教員
管理部署
とのダブルチェック



有体物管理センター



研究成果報告 (抜粋)

- 2014年 UIN Good Practice Series, P144-153
K Fukami, A Sumikawa, Y Suenaga, Y Hanada,
“Materials and MTAs Management Tool for Universities”
- 2017年 研究イノベーション学会誌、32(2), 185-201
深見克哉ら、
「大学におけるWebシステムを用いた成果有体物授受一元管理の試み」
- 2008、「大学における成果有体物の管理とその活用事例」バイオサイエンスとインダストリー、Vol.66, No.7, 383-388.
- 2011、「大学における海外遺伝資源の管理と活用」バイオサイエンスとインダストリー、vol. 69, No.4, 319-324.
- 2013、「九州大学とネパールとのキノコを用いた共同研究」、平成24年度環境対応技術開発等 (生物多様性総合対策事業) 委託事業報告書、p345-359
- 2015 (特集) 名古屋議定書に関して「有体物管理センターの活動/大学における遺伝資源の授受管理」生物工学会誌 第93巻、第10号、p593-598.
- 2018「基礎研究における海外遺伝資源入手の際のMTA雛型」化学と生物、56巻,1号, p52-58.
- 2018「大学における機関管理について (連載: 名古屋議定書締約で変わる遺伝資源輸入手続き)」アグリバイオ、4巻、2号、p32-35.

2. 有体物ライセンス収入の学内配分率について

現状)

- ・ 文科省からの特別予算は2020年度までで終了
- ・ その他外部資金も2021年年度までで終了
- ・ 必要経費の見直し（支出見直し）
- ・ ライセンス収入は安定的ではない

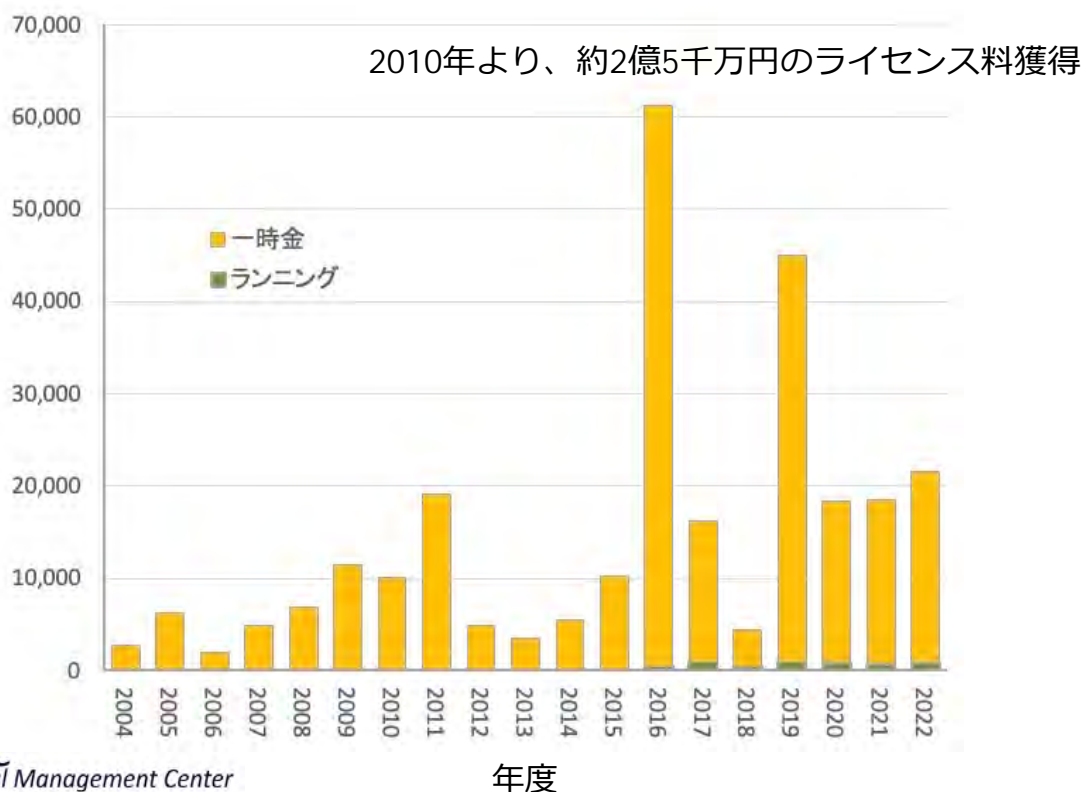
→運営費の獲得の必要性

創作者の所属する研究室等への配分を 80% から 50% へ変更。
有体物管理センターへ配分を 20% から 50% へ変更。



今までのライセンス実績（契約締結年度ベース）

(千円)



有体物管理センター収支

(単位：千円)

【現行20%】

【改正後50%】

		2022	2023	2024	2025	2026	2027					
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	2024	2025	2026	2027	
								令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
収入	合計	10,300	7,431	7,077	7,006	6,936	6,847	9,117	9,076	9,036	8,947	
	1 成果有体物移転収入のうち センターへの配分額	4,232	1,500	1,360	1,380	1,400	1,400	3,400	3,450	3,500	3,500	
	成果有体物移転収入 (A)	21,161	7,500	6,800	6,900	7,000	7,000	6,800	6,900	7,000	7,000	
	センターへの配分額	4,232	1,500	1,360	1,380	1,400	1,400	3,400	3,450	3,500	3,500	
	2 大学運営経費	6,068	5,931	5,717	5,626	5,536	5,447	5,717	5,626	5,536	5,447	
	6,068	5,931	5,717	5,626	5,536	5,447	5,717	5,626	5,536	5,447		
支出	合計	23,133	23,081	8,720	8,720	8,720	8,720	8,720	8,720	8,720	8,720	
	1 MMCシステム年間保守費	1,152	1,200	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2 MMCシステムプログラム変更関係	3,494	3,500	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3 各部屋の年間賃貸料	745										
	4 人件費	A	9,079	9,000								
		B	6,132	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	
	5 光熱水料	806	810	300	300	300	300	300	300	300	300	
	6 通信費	127	130	130	130	130	130	130	130	130	130	
	7 雑費（運搬費・複写費・学会費）	136	140	140	140	140	140	140	140	140	140	
	8 学内ホスティングサービス年間利用料	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
	9 外部アドバイザー委託費	1,063	400	400	400	400	400	400	400	400	400	
10 消耗品	350	351	200	200	200	200	200	200	200	200		
収入－支出	-12,833	-15,650	-1,643	-1,714	-1,784	-1,873	397	356	316	227		